

夢あふれる酪農経営

千葉県立安房拓心高等学校 総合学科 3年 笹子 祐樹

私の家は、酪農発祥の地の千葉県南房総市で酪農経営を営んでいます。物心ついたころには、牛舎は私の遊び場でした。今思うと両親の働く姿を見様見真似で仕事の手伝いをしたりしていました。そこで働いている家族の姿を見て、私はとても「かっこいいな」と思い、家族仕事の真似ることがとても楽しかったのを今でも覚えています。小学校に4年生になったころ、私はバスケットボールがとても好きになりバスケットボール部に入部しました。それをきっかけに、朝早く家を出て、暗くなって帰宅する部活動中心の生活になり、牛舎に入ることが少なくなりました。休みの日でも、午前中に練習を行い、午後に牛舎に行くのはとても大変で、小学6年のころには、ほとんど牛舎に入らなくなってしまいました。

中学校入学後も部活動中心の生活が続き、牛舎に入ることはほとんどなく、夏休み中のサイロ詰めを手伝う程度でした。

この間、バスケットボールに真剣に取り組むことで、楽しいことや嬉しいことをたくさん経験することができました。時には、部活動続けることが辛くなったこともありましたが、8年間バスケットボールを続けることができ、体力面は勿論、あきらめない心など精神力が自分自身大きく成長できたと実感しています。

中学校3年8月に部活動を引退した私は、時間が取れるようになり、手伝いを始めました。幼いころはとても楽しく遊び感覚で牛の世話をしていたましたが、父親の一生懸命に働く姿を改めて見つめたことにより、私の中で酪農という仕事への思いが次第に変化し、遊びではなく仕事として酪農の手伝いをするといい気持ちで手伝いに取り組みようになりました。

高校進学の際、地元で酪農に関する学びができる安房拓心高校に進学し、2年生から畜産系列で乳牛の飼育や乳製品の加工などについて学習しています。

入学当初の私は、最終的に就農すればいいという曖昧な気持ちで将来の進路を考えていました。

1年生の3月11日に起きた東日本大震災の影響で、私の住む地域でも計画停電が行われました。発電機の準備がなかった我が家では、今までどおりの時間帯に搾乳することができず、乳房炎になる牛がとても多かったことを記憶しています。計画停電は仕方ありませんが毎回のよう停電の時間帯がずれることへの対応が牛も人もとても大変でした。牛の生活リズムに合わせ、決められた時間に作業を行うことの大切さを痛感しました。

2年生になり畜産系列の学習が始まりました。私が初めに驚いたことは、学校のフリーストール牛舎です。我が家の繋ぎ飼い牛舎と異なり、牛舎内を自由に牛が歩き回り、搾乳時にはパーラー内に1頭ずつ入ってきます。ミルカーを移動させることなく、搾乳が終了すると

自動離脱装置でミルクカーが自動的に乳頭から外れるなど初めて見るものばかりでした。牛の飼い方にもさまざまな方法があることを知り、我が家の経営に適した牛舎のタイプやミルクカーなど酪農経営に次第に興味を持ちはじめました。夏休みに5日間の農家実習に参加する機会がありました。実習先は地元和田町の三浦牧場にお世話になることになりました。私は我が家や学校以外で実習させていただくことが初めてで、とても新鮮に感じることができました。三浦さんはとても自由な人で、いろいろなことを教えてくれました。「毎日同じことばかりじゃ、つまらなくなる。自分が好きなことを見つければ仕事が楽しくなるぞ!!」と言われ、ただ単に家で仕事するのではなく、趣味を持つなど好きなことを見つけてみようと思うようになりました。高校3年になり真剣に自分の進路について考えるようになりました。現在の我が家の経営は、経営規模に見合った労働力を確保することができず、慢性的な労働力不足に悩まされていることに気づきました。

我が家の牛舎は、繋ぎ牛舎で、個体の観察や管理、コンディションに合った飼料給与ができるなどの利点がありますが、その反面、飼養管理の機械化が進まず、労働力を軽減することができないなど、多頭化がしにくい状況にあります。また、牛の自由な行動が制限され、牛のストレスを与えてしまうという欠点があります。

そこで私は、人と牛のストレスを軽減し、快適な環境で牛を飼育する「カウコンフォート」の志を掲げ地域酪農家の一員として経営に取り組みたいと考えています。

私の住む南房総市では、市内の酪農家を中心となりNFC和田（ナチュラル フィード コミュニティー）というコントラクターを組織しています。この組織は、農家が保有していた農地をまとめて管理し、サイレージを作る事で、農家の負担軽減を目指して作られました。さらには、山間部を中心に散在している遊休農地も活用して自給飼料の生産を拡大する事が目的です。我が家もこの組織の一員として飼料田やトラクタなど農業機械を提供することで労働力の軽減と安価な粗飼料の購入が可能になりました。

また、数年前から南房総市和田町の酪農家の中で、経営者の高齢化による労力負担や乳価低迷による資本投下が難しい状況にありました。配合飼料や乾牧草価格の値上がりも影響し、和田地域でTMRセンターが実現できないかという取り組みが、飼料会社や流通を担う地元運送会社、獣医師を加え具体的に検討されました。現在では、酪農家11戸（搾乳牛約400頭）、日量約11tのTMRが生産され利用されています。地域で取り組んだTMRセンターの稼働により、分離給与の時は牛の飼槽を数回歩かなければならなかった作業が、TMRの導入により給与作業が減り労力の軽減できました。乾牧草がカットされたことで、牛床にかき込むことがなくなり、飼料の無駄が減りました。設計されたTMRを給与することで泌乳量が増加し、疾病牛が減少し、繁殖成績が向上するなど経営の改善が図られています。

このような取り組みにより、人と牛のストレスを軽減することで、飼料を十分に食い込め、

多くの時間牛床で横になり、力強く反芻を繰り返すことのできるストレスのない牛群を作りたいと考えています。

しかし、牛に関するストレスには、多くの要因があります。それらの要因を1つずつ解決していきたいのです。

暑さに弱い牛にとってもっとも大きなストレスがヒートストレスです。この自然的ストレスに対しては、扇風機による強制送風や寒冷紗で日光をさえぎるなど多くの暑熱対策を行っています。私の住む南房総市における夏場の気温は日中30℃を超える日がほとんどです。暑熱対策は待ったなしの状態にあるのです。我が家では、つぎの暑熱対策として細霧機の導入を行い、暑い房総の夏を乗り切りたいと考えています。

生理的なストレスとしては搾乳ストレスや肢蹄の病気・怪我などがあります。搾乳ストレスは搾乳時の圧力調整やライナーゴムの定期的な交換をミルクカーの定期点検を行い、エアーを吸い込ませない搾乳技術を身に付けるなど搾乳ストレスを減らしていきたいのです。肢蹄の病気等への対策として、マットの素材や敷き量の検討しながら牛にとって最良の居住空間を提供したいのです。生理的なストレスは怪我や病気に直結することが多いので、頻繁に牛群を観察するなど牛に変化に注意を払い、病気や怪我を未然に防ぎたいのです。

牛を取り巻くストレスはこの他にも多くの要因があります。簡単に解決できるものではありません。私は、高校卒業後進学し、酪農に関する専門的な知識・技術を身に付けながら、「カウコンフォート」を実践し、牛にストレスを与えない飼養管理を行っている全国各地の酪農家を訪問し、自らの視野を広めながら我が家に適した飼養管理方法を確立したいと考えています。

そして、酪農発祥の地である南房総の酪農を支える酪農家として地域の酪農家と協力しながら地域特性を活かした酪農経営を行いたいのです。
